

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般

1～2年生 5万円/月額

3～4年生 6万円/月額

5～6年生 7万円/月額

特別

全学年 12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！

point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！

point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省
指定臨床研修病院 高松平和病院



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-833-8759

学生サポートセンターみき



〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当/浦宗・野口・花谷
tel.070-1258-6360 mail:heiwahp@gmail.com
香川民主医療機関連合会
高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376

ブログ更新中

<http://www.heiwahp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～



発行元：香川民主医療機関連合会

2018 AUTUMN / WINTER

KIMAI

Vol.12



キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味

C O N T E N T S

- ・研修医座談会
- ・患者さんとの心温まるエピソード
- ・若手医師の育児日記
- ・わたしのオススメ
- ・病院実習
- ・企画報告～熊本震災後ボランティア～
- ・ISHIMESHI・私の仕事・編集後記

Doctor Mayu Uemoto × Doctor Shiori Hanyama



医学生と
香川民医連を
むすぶ情報誌

研修医 座談会

01・02p



香川民主医療機関連合会

研修医 座談会

仕事とプライベートな 時間の割合は

植本「平日は家に帰ったら家事や育児がまっているので、仕事は持ち帰りません。日中にしっかり仕事をして、家に帰ったらお母さんに徹して、6:4位の割合で仕事の時間が長めではあります。休日は育児を主人に任せて(※P05の「育児日記」に登場する植本一俊医師)勉強をする為に子どもと離れる事もありますが、基本的には子どもといっぱい関わりを持つようにしています。」

半山「仕事と休みのメリハリをつけたいので、私も家では仕事をしていません。しいて言えば興味がある小児科の本を読むくらいでしょうか。まだ結婚をしていないので平日は仕事のウエートは大きく8:2か7:3位で頑張っています。そのかわり休日にはスイッチを切り替えてお休みモードを満喫しています(笑)」

高松平和病院で研修をしている感想を教えてください。

植本「自分のペースで研修ができる事が何より気に入っています。研修担当事務さんと細かい調整をしながら自分の興味がある事、やりたい事を、のびのびさせてもらっていると感じます。私は初期研修の間に「結婚・出産・育児」を経験しましたが、その度に臨機応変に対応してもらいました。」

半山「確かに、決定権は私達研修医にあって、研修医主体の研修ですね。」

植本「病院の都合で…というのは基本的にないように感じますね。」

半山「当直研修も要望を聞いてくれているので、ひどく体調を崩す事もなく、やってこれています。」

今回は女性医師として
活躍されているお二人に
ワーク・ライフ・バランスに
ついてお聞きしてみました。

自分の抱いていた理想の 医師像に近付いていますか？

植本「現時点では研修医の立場なので、自分が憧れている、診察→アセスメントしてプランをたてて→フォローみたいな「一人の患者さんを最後まで診る」という医師になれているのかと言うと、1人ではまだ無理かなって感じています。ただ一日でも早くそんな医師になりたいって努力をしている最中です。」

半山「私の場合はもともと小児科医になりたくて、学生時代にへいわこどもクリニックで実習をして更に小児科になりたい気持ちが強まって、研修で小児科を回って「小児科になる」と明確なビジョンになったという時間系列です。」

ストレス解消法は 何ですか？

植本「私は家庭があるので、家庭のストレスは仕事で忘れて、仕事のストレスは家庭で忘れるみたいにバランスが取れています。仕事をする事で子どもが保育園に行ってくれて、うまく子供との距離感が保てているかなって」

植本、半山「専業主婦って最強!!(笑)」

半山「真由先生って学生の頃によくお酒を飲んでいませんでしたか？」

植本「もちろん友人と一緒に大好きなお酒を飲む事や、カラオケにいったストレス発散する事もありますよ。」

半山「私の直近の楽しみは「海外旅行です!!」一年間一生懸命働いた自分へのご褒美です。夏休みを1週間とってクロアチアに行ってきたーす!!」

植本「いいなー」

Doctor Mayu Uemoto × Doctor Shiori Hanyama



医学生・高校生への メッセージ

半山「モチベーションを保つ為に実習に行く事をオススメします。高校生は医師体験ね。くれぐれも患者さんで病院に係る事がないように、勉強に部活に遊びに励んで下さい。」

植本「医師になったらいろいろな価値観を持った患者さんや職員の方と一緒に働く事になるのですが、自分と違った価値観の人にも「そんな考え方もあるんだね。」と受け止めれるように学生のうちからたくさん経験をして下さいね。」

半山「面接は日頃の自分が100%出せる様にリラックスして下さいね。」

植本「勉強は今からグーンと伸びる事もあるので最後まで諦めずに頑張ってください。応援していますよ。」

植本、半山「体調管理に気を付けてインフルエンザの予防接種はお忘れなく」

高松平和病院 初期研修医(2年目)

植本 真由 医師

Doctor Mayu Uemoto
profile
香川大学 2015年卒
滋賀県出身 膳所高等学校卒



高松平和病院 初期研修医(2年目)

半山 栞 医師

Doctor Shiori Hanyama
profile
香川大学2017年卒
香川県出身 高松高等学校卒



「在宅での看取り」と聞いて、みなさんはどんな印象をお持ちですか？がんのターミナルの患者さんのことなどはドラマや漫画や小説、ドキュメンタリー等で見たとあるかもしれませんが。しかし実際に医療・介護の現場では、自宅だけでなく老人ホームや高齢者専用住宅などで人生の最期まで過ごすケースも最近では珍しい事ではありません。高齢化が進んでいる現代社会ではがん患者以外（以下、非がん患者と記す）でも自宅で最期を迎えることもあります。たとえば高度の認知症で寝たきりになってしまった場合や肺、心臓、腎臓などの重い病気を抱えている患者やその家族が、その時をどう迎えるか悩みながら選択し実際に看取るようなケースがあります。↓

今回は自身が経験した非がん患者の看取りを紹介し、みなさんにも一緒に考えてもらいたいと思います。

糖尿病や高血圧を抱える90歳近い女性の方で、10年以上前に脳梗塞を発症して急性期病院で加療後に高松協同病院で入院リハビリテーション実施しました。左片麻痺は残ったものの自宅退院できその後も当院外来通院しながらデイケア等利用して在宅療養を継続していました。さらに腰椎椎間板ヘルニア、消化管出血や低血糖発作、糖尿病性の腎症・腎不全の増悪、腰椎圧迫骨折など様々な病気で入退院を繰り返しましたが、その都度急性期病院と当院での入院リハビリテーションや在宅での訪問リハビリテーションなどの地域連携で自宅での療養生活を継続できていました。

それでも次第に移動が困難となり、介護の中心を担っていた夫も高齢で介護力の低下が予測されることから自宅での療養を継続するかまたは施設入所かの両面から検討が必要になったこともありました。しかしご本人のどうなってもいいから最期まで自宅にいたいとの強い意向もあり、夫の介護量の軽減を図るために訪問看護の導入や施設のショートステイも利用しながらやはり在宅療養を継続していくこととなりました（もちろん特別養護老人ホームには簡単に入所できませんし、経済的に有料老人ホームなどに入所することが困難であるという社会的な側面も指摘しておかなければなりません）。



その後外来通院が困難となった時も、訪問診療の導入でやはり自宅での療養を継続しました。慢性腎不全の進行に対して最近が高齢であっても人工透析などの治療を受けるケースもあり、ご本人やご家族にも情報提供を行い腎臓内科や泌尿器科の医師への相談もしてきました。腎不全の進行を遅らせるための生活指導や必要に応じて注射等の処置なども行って、さらに在宅療養の継続を援助しました。

それでも2年程前の4月に入ってもやはり食欲低下がみられ訪問看護師さんの協力で点滴をしたり、自分で尿が出せなくなったために尿道に管を挿入して尿を出すようにしたりと、ますます介護は大変になっていきました。その時点であらためて、本人や夫に急変時の対応についても確認しました。本人の認知面はしっかりされており、今後基本的に入院しないこと、最期まで自宅で過ごしたいとの意思を明確に表明されました。その年の7月中旬頃より食事や補助栄養剤も含めて摂取がさらに少なくなり8月に入り意識レベルも次第に低下し浮腫も悪化したため、夫や長男とも相談しました。あらためて本人の意向を尊重し自宅での看取りの方向性を確認できました。点滴等の処置も中止し次第に意思疎通が全くできなくなり、8月中旬の早朝に夫より息をしないようだと主治医である私に連絡がありました。急いで臨時往診すると、安らかな顔で旅立たれた様子でした。

あらためて理想的な死の迎え方とは何かを考えさせられました。今回の患者さんの例では長期的に本人・家人と関われたことで、主治医をはじめ医療・

介護のスタッフとの信頼関係も構築され全身状態の悪化にも冷静に対処できたと思います。親子関係が良好であったこともあり、本人・家人の希望も方向性が比較的容易に一致したことも自宅での看取りを可能にした大きな要素となったと感じています。またそれを支援できた自分にも少し自信を持つことができました。

もちろん学会等の議論でも医学的な判断や倫理的な問題など、非がん患者の看取りはまだまだ統一した指針や手引きがあるわけでもなく多くの課題を残しています。それでもやはり本人の意向やADL・QOLの維持・向上、家族の健康や介護負担の軽減などを多面的に配慮でき、多職種の人たちとの連携をコーディネートできるような医師が地域でますます求められていることは間違いのないでしょう。

地域の中でずっとその人らしく生きられて死んでいける、そんなことを手助けできる「地域医療の専門医」を私たちと一緒にめざしませんか？

北原 孝夫医師

Doctor Takao Kitahara

profile

高松協同病院・院長

（内科・リハビリテーション科医）

香川大学1999年卒 愛知県出身

千種高等学校卒



臨床推論セミナーを定期開催しています!

今年の4月から毎月第3木曜日に香川大学医学部の講義室をお借りして「臨床推論セミナー」を定期開催しています。高松平和病院の内科・家庭医療科の佐藤龍平医師を講師にして医学生さんが大勢参加してくれています。

臨床推論セミナーのテーマは佐藤医師が実際に担当した患者さんの訴えや身体所見を元になっています。

それらの情報と患者さんの生活背景(家族構成・仕事・飲酒・喫煙)、現在飲んでいる薬の種類、過去にかかった病気などを手掛かりに、確定診断を学生さんと一緒に行う参加型のセミナーです。

大学(医学科)の授業で「症候学」があると思いますが、症候学を実践的に学ぶ事ができると学生さんからも高評価を頂いています。

7月には「主訴:喉がとてつもなく痛い」をテーマに臨床推論セミナーを開催しました。

2018年度 第2回
医療系学生学習セミナー

臨床推論セミナー

「主訴・・・ずっと食欲がない」

参加費 無料
お弁当 付

日時 2018年5月17日(木)
19:00-20:30

会場 香川大学医学部
臨床講義棟1F講義室

お問い合わせ・お申し込みは
高松平和病院(学生担当)070-1258-6360

講師:佐藤龍平医師
高松平和病院
内科・家庭医
鹿児島大学2011年卒



▲「お弁当を食べながら気楽に参加できます。」



▲「参加型のセミナーの様子が伝わってきます。」

2018 7/19[木] 19:00~20:30 (18:30頃~入室可能。お弁当お渡しします)

臨床推論セミナー

大好評につき開催!!!
主訴~のどがとてつもなく痛い
腹膜炎
髄膜炎
頭痛
身体所見

参加対象:医学生 (1~6年生)
参加費 無料・弁当付

香川大学医学部キャンパス
臨床講義棟 1F講義室

講師:佐藤龍平 医師
(高松平和病院 内科・家庭医)
鹿児島大学2011卒

実際の医療現場での症例を聞いて、その疾患や患者さんの背景を考えていく学習企画です。疾患だけでなく、患者さんの生活背景まで考えていくので、低学年でも取り組みやすい内容です。奮ってご参加ください。

申込方法 ①野口 080-6372-7838 ②花谷 090-7579-4259
高松平和病院 学生担当 宛

電話で ①野口 080-6372-7838 ②花谷 090-7579-4259
お申込みください
申込/切 7/18[水]

感想

- 大変分かりやすくモノの見方を教えて頂き貴重な勉強会でした。
- まず急を要する危険な病気を除外できるのか・・・との考え方から始まる事を知りました。
- 喉が痛いというだけでたくさんの病気がある事を知りました。

患者さんの疾患を背景から考える・・・

臨床推論セミナー

日次:2018年4月19日(木) 19:00~20:30
場所:香川大学医学部キャンパス臨床講義棟1F講義室

参加対象者 医学生 看護学生
臨床心理学科の方も興味があればどうぞ

参加費:無料
お弁当付

本学から送迎可能
ご自宅へアルバイト先へご相談下さい。

主催:高松平和病院

講師:佐藤龍平医師
高松平和病院
内科・家庭医
鹿児島大学2011卒

実際の医療現場での症例を聞いて、その疾患や患者さんの背景を考えていく学習企画です。疾患だけでなく、患者さんの生活背景まで考えていくので、低学年でも取り組みやすい内容です。

お電話でお申込み下さい
070-1258-6360

ただの「風邪」なのかそれとも重篤な状態なのかを見極める上での重要なポイントのレクチャーを受けながら徐々に確定診断に近付いていきます。

最終的にみんなで確定診断ができた時に、いったいこれから何を身につけたら診断が行えるようになるのかを少しでも学んでもらえるセミナーになっています。

毎月定期開催です。セミナーのチラシも香川大学医学部学務の掲示板や高松平和病院の「医学生・研修医のページ」のブログに掲載されていますので是非チェックして参加して下さい。

医療系学生学習セミナー 2018年度 第3回

臨床推論セミナー

今回のテーマ
主訴・・・熱がさがらない

2018.6.21 THU
19:00 - 20:30

場所:香川大学医学部
臨床講義棟1F講義室

参加費:無料(お弁当付)

講師:佐藤龍平医師
高松平和病院
内科・家庭医
鹿児島大学2011年卒

主催:高松平和病院

【お問合せ・申し込み】 学生担当:TEL. 070-1258-6360

医療系学生向け。

今回のテーマ
主訴:たくさん水を飲みたくなる
症候学を実践的に楽しく学べます。

2018年度 第5回

臨床推論セミナー

9月20日(木) 19:00~20:30

場所:香川大学医学部 臨床講義棟1F講義室

参加費:無料 (お弁当付)
送迎も出来ます。

主催:高松平和病院
お問い合わせはこちらまで
学生担当者
090-7579-4259
【受付時間】 平日9:00~18:00

講師:佐藤龍平医師
高松平和病院 内科・家庭医
鹿児島大学2011年卒

若手医師の 育児 日記 (植本一駿医師) Vol.3

▶保育園・病児保育等を上手に活用して、仕事と育児の両立をこなす植本夫妻



植本 真由 医師

Doctor Mayu Uemoto
香川大学2015年卒 滋賀県出身
膳所高等学校卒

植本 一駿 医師

Doctor Kazutoshi Uemoto
香川大学2014年卒 岡山県出身
岡山理科大学附属高等学校卒

娘も、もう1歳と7ヶ月になり、ここ半年では言葉はまだだが歌を歌ったり、鉛筆でキャンパスノートに落書きができる様になったり、さまざまな部分で成長している。徐々に娘のできることが増えるにつれ、手のかかる部分も増えており、乳児の頃の大変さとはまた違うベクトルでの忙しさを味わっている。しかし、父親としては日々娘の成長についていくことが楽しく、育児としても娘のためのものであると考え、特に苦痛を感じることなくできていると思う。仕事も基本的には定時には終わる様に調整して仕事ができているし、育児が仕事に支

障を来たしているという実感もなく、今は上手く「ワークライフバランス」というものがとれている。逆に仕事が終わるのが遅い様では、今の様な生活はできなかったと思う。

家事育児と仕事は両立が難しいとよく言われるが、別に二つ同時にするものでもないの、「～時まで仕事」「～時頃に子どもに寝てもらう」「自分が寝るまでは自由時間」といったように生活リズムを整えれば、家事育児も仕事もそう難しいものではないと感じている。



▲おやつタイム

▲夕食タイム



安田 理 医師

Doctor Osamu Yasuda
高松平和病院 後期研修医 香川大学2015年卒 大阪府出身 茨木高等学校卒

私の趣味はスニーカーのコレクションです。なかでもニューバランスが好きで、20年以上好んで履いています。数年前から女性にも注目され、最近では若い女性が履いているのもよく見かけますが、もともとはおじさん靴の定番だったんですよ。軽すぎず重すぎず歩きやすく疲れにくい。様々なカラーやモデルが登場していて、現在10足ぐらい所有しています。最近娘用にも購入して、親子お揃いで履いて出かけるのが週末の楽しみです。外も少しずつ秋めいてきました。皆さんもお気に入りのスニーカーを履いて秋を見つけに行ってみてはいかがでしょうか。



▲新しいスニーカーを履いてご機嫌な娘さん。

浦宗 宙

Hiroshi Uramune
香川医療生活協同組合 学生担当・人事教育部

1976年、中学生になったとき、先輩が持っていた吉田拓郎のレコードに衝撃を受け、ギターに興味を持ち、その年のクリスマスに親にねだって安物のフォークギターを買ってもらって以来の、ギターとの付き合いです。必然的に、聞く音楽がギター中心となっていき、山の中にかろうじて届くラジオの電波からロックを知り、今では伝説のギタリストといわれる人たちの音楽を拾って聞きました(当時の、ロックの先生は渋谷陽一さんというDJだったな...)。音楽のCDを自由に買うことができるようになって、当時断片的に雑音交じりのエアチェック(ラジオを録音すること)テープで聞いていた曲を、アルバムとして持つことができるようになって来ました。現代の学生の皆さんが、興味を持てるかどうか分かりませんが、何枚かアルバムCDを紹介してみます。



「レッド・ツェッペリンⅣ」／レッド・ツェッペリン……収録されている「天国への階段」がスゴイ曲です。このバンドのギタリストは、3大ギタリストの一人、ジミー・ペイジ。ちなみにバンド名のレッドは'Led'で、「鉛」、ツェッペリンというのはドイツの飛行船の名前。



「ライブインジャパン」／ディープ・パープル……1970年に日本で行われたディープパープルのライブをまとめたアルバム。のっけからリッチー・ブラックモアのギターがスゴイ。50年近くたっても、古さを感じません。



「いとしのレイラ」／デレク&ドミノス……伝説のバンド「クリーム」を解散したあと、エリック・クラプトンがつくったバンド。あの有名な「いとしのレイラ」のギターフレーズが病みつきに。

……これらの曲のギターを私が弾けるかどうかは別問題です(笑)。

企画報告

広島豪雨災害支援活動(安芸郡坂町)に参加してきました。

今回、西日本を中心に甚大な被害をもたらした記録的な豪雨により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

7月16日(月)香川民医連からは医師をはじめ、4名が参加させていただきました。早朝5時に平和病院に集合し、車で広島駅に向かいました。その日は全国から民医連職員が約30名の参加があり、拠点まで電車と小型バスで移動しました。現場の被害状況は想像以上でした。坂町では川の氾濫により、家が土砂で埋まっているところ、川沿いの道路はえぐれていて、どこまでが川で、どこまでが道なのかわからないところなど被災地を自分の目で見て胸が苦しくなりました。

現場では連日の猛暑が続く中での作業で、支援者が熱中症で倒れる事態が発生しているため、「活動は10分したら10分休憩」を徹底するようにボランティア本部からの指示がありました。まだまだ瓦礫と土砂に埋もれた地域で、民医連のビブスを着た職員が地域のあちこちで活躍していました。私たちは民家の地下室に溜まったゴミや泥水、土砂出し作業をさせていただきました。滝のように汗が流れ、泥だらけになりながら、土砂の量が多すぎて、1日では作業が終わらない現場もたくさんあり、復旧復興までかなり時間がかかると感じました。また、自分の力は微力ですが、この微力が何百人と集まると大きな力になると実感しました。

報道以上に被害は大きいです。被災地ではまだまだボランティアが足りない状況で、みなさまのご協力を宜しくお願い致します。(学生担当 野口)



▲甚大な被害の様子が伝わってきます。



▲豪雨の影響で道路が壊れています。



▲車が土砂で埋もれています。



▲土砂置場



▲香川民医連の職員でボランティアに参加しました。右から2番目は北原孝夫医師です。

私の仕事



高松平和病院
医事課
藤原 希
Nozomi Fujiwara

高松平和病院の医事課で外来事務をしています藤原です。医事課では主に入院業務と外来業務に分かれており、外来業務では受付・会計・カルテの入力・保険請求などを行っています。また、医事課では毎日、時間ごとに業務をローテーションしており、全員が同じ業務をこなせること、そしてミスがないように日々業務を行うことができるよう努めています。

また、近年の取り組みとして、初めて高松平和病院に来られた患者さんの職業歴のカルテ記載を行っています。これは、SDHの取り組みの一つです。SDHとは、病気の原因を本人の責任と考えるのではなく、健康の格差には、社会格差、ストレス、労働、幼少期の生活など政治的、社会的、経済的要因などさまざまな原因が重なり合っていると考えます。

日々の業務をこなしていくだけではなく、そういった患者さんの背景を考えながら、関わりを持つことができる事務職でありたいと考えています。



初期研修2年目、半山葉先生の「イシメシ」です。時間がある時には自分で作ったお弁当を持っています。彩も鮮やかなお弁当、美味しそうですね！



編集後記

今年の夏休み1日医師体験には50名の高校生が参加してくれました。その一生懸命な姿にいつも元気をもらっています。皆さんの夢が叶うように応援していますよ。



1日医師体験

[アンケートはがき・KIMAI2018夏号の感想]

- 共働きで大変なのに旦那さんも育児に協力的というのはすごいと思いました。(医学科4年)
- 治療においては、まず患者様の意見を確認し尊重しなければいけない事が分かりました。(高校2年)
- 私のオススメを読むと医師の方々も「同じ人間なんだなあ」と思い安心します(笑)(高校2年)